

水辺のふるさと かつしか 夏号

2022.3 - 5

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：コガモ

撮影場所：水元公園

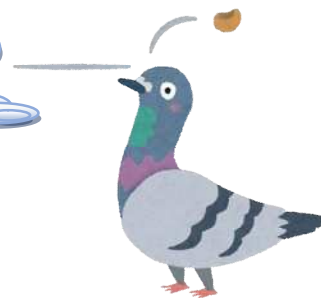
写真提供：瑛ちゃん

目次

- 1 55種の動植物調査結果 P 2
- 2 自由レポート P 3
- 3 季節の写真集 P 22
- 4 魚からの便り P 28
- 5 環境課からのお知らせ P 32

担当編集のひとこと

こんにちは。環境課自然環境系の岡田と申します。



最近、生きものの鳴き声に興味が出てきたお話をしたいと思います。

昨年度環境課に配属されてから、昆虫観察や魚類調査など自然に多く触れあう1年を過ごしました。その中で、非常に印象に残っているのが、「カンタン」という昆虫です。河川敷や区立公園内にあるカンタンの里に生息している昆虫で、全長約1.5 cm程度の小さな体から、きれいな鳴き声を奏でます。イベントでそのきれいな声を注意深く聴いていたら、これまで何気なく聞こえていた生きものの鳴き声が、ふと「これ何の鳴き声だろう？」と気になるようになりました。ちなみに直近で知った鳴き声は、夕方によく聞こえる「ホーホー、ホッホー」がキジバトだということです。

葛飾区内にはたくさんの自然があり、様々な鳴き声が聞こえてきます。これから自然環境レポーターの皆様と共に自然や生きものについて学んでいく中で、聞き分けられる鳴き声を増やしていきたいと思っています。

*** 岡田 ***

55種の動植物 調査結果(3月~5月)

【調査区2】 計15種

〈鳥類〉 ツバメ、ツグミ、ウグイス、
シジュウカラ
〈昆虫〉 ナミアゲハ、**アカボシゴマダラ**
〈植物〉 スギナ、**ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、スズメノエンドウ、
イモカタバミ、オオバコ、ススキ、
アレチウリ、**ジュズダマ**

【調査区3】 計15種

〈鳥類〉 ツバメ、ツグミ、コサギ、シジュウカラ
〈昆虫〉 クロアゲハ、ナミアゲハ
〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、
スズメノエンドウ、**シロツメクサ**、
スギナ、カントウタンポポ
〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**
〈クモ類〉 ジョロウグモ

【調査区5】 計18種

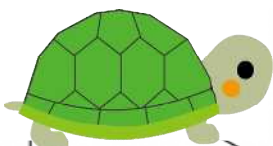
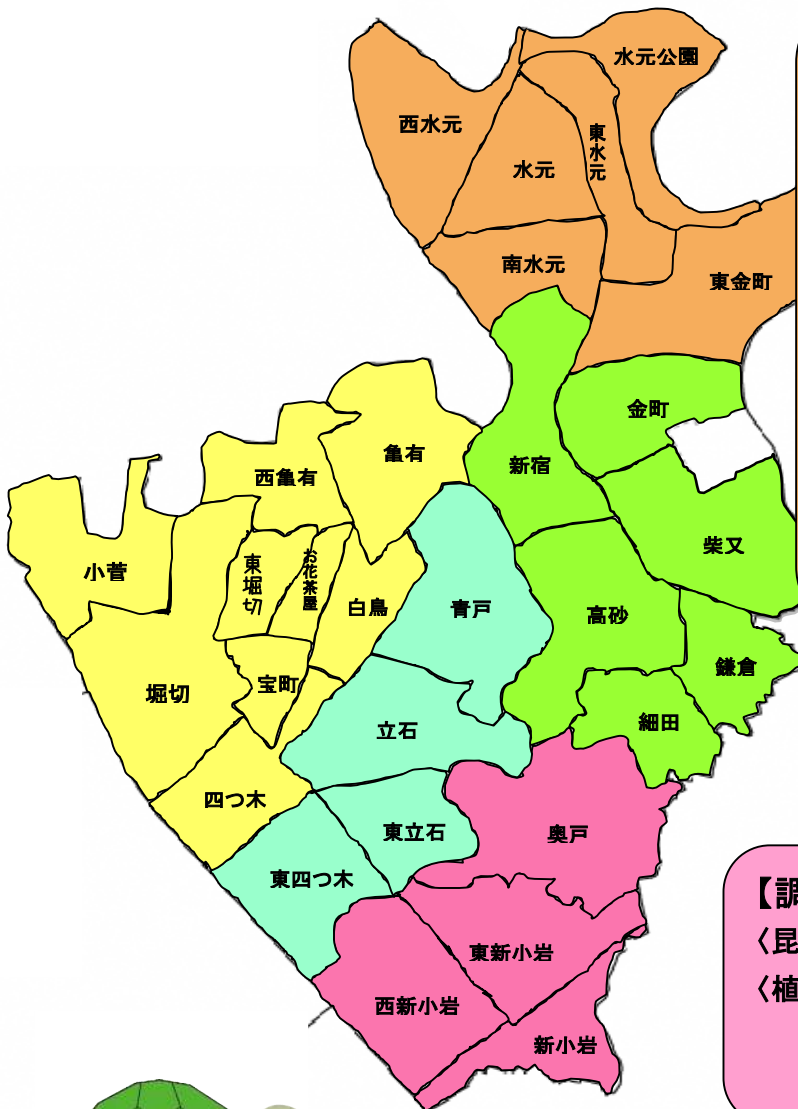
〈鳥類〉 コアジサシ、ツバメ、
オオヨシキリ、コガモ、
ツグミ、ウグイス、コサギ、
カワセミ、コゲラ、
シジュウカラ
〈昆虫〉 ナミアゲハ、クロアゲハ、
ツマグロヒョウモン
〈植物〉 アカメガシワ、
ナガミヒナゲシ、
シロツメクサ、**イモカタバミ**、
カントウタンポポ

【調査区4】 計4種

〈鳥類〉 ツバメ、シジュウカラ
〈植物〉 スギナ、**ナガミヒナゲシ**

【調査区1】 計7種

〈昆虫〉 ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
〈植物〉 アカメガシワ、**ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、**イモカタバミ**、
オオキンケイギク



赤字は外来種だよ

昨年から引き続いて今年もまた受難続きである。気候も例年通りでなく寒暖の差が激しい。コロナも世界的に猛威を振るうなどというように快いニュースが少ない。

今の季節はまた桜の開花が気になる。我が家から程近くにあるかつて森永工場の裏だった緑道公園は知る人ぞ知る桜の名所だと思う。三月初めの頃は桜の古木の群れを眺めながら満開の姿を想像していた。

満開の桜を愛でることで憂さを癒したいものだと思う。そこを通るごとにその姿を思い描いてその時を待っている。トンネルのような桜の並木を通る。固い蕾が段々膨らみ次第に薄桜色に染まって行くのを観るのは胸が膨らむ心地である。日頃あまり人は通らないから、絶好の場所だ。開花の時はゆっくり堪能するほど観賞しよう。

とうとう待ちに待った花見の頃となった。テレビで毎日のように開花情報がある。日本に生まれて幸せだと思う時である。反面、戦火の地に住む方々には同情を禁じ得ない。花どころでないだろう。東京が空襲に遭った日々の事を思い出す。そうしていつまでも花が散らないでいて欲しいものだと無理なことを願う。緑道公園の桜並木の桜は天蓋のように高く咲くから上を向いて歩くのだ。

桜にも色々な種類があるのですね。テレビからいろいろ教わることが多い。花の中心が濃い紅色に染まるともう、終焉の時だという。それを知ってから花の命が惜しまれて見上げるたびに確かめる。花はどれでも精一杯咲いて散って行くが、桜には殊の外思いが残る。花の命は短い。今は高齢になりなんとか日々を過ごしている私も、いつまで元気でいられるか？と桜の姿に未来を重ねている。桜が終わると順々に花々が開花して、忘れていた花々と巡り合える。「年々歳々花相似たり、歳歳年年人同からず」の古歌を思い出した……………。

令和4年4月4日

新緑の候

弥生さくら草

長かった冬が去り、輝くような春が巡ってきた。見まわせば瑞々しい萌黄色である。一番素敵な季節であるが世界は混沌としている。戦火に苦しむ方々が大勢おられると思うと暗澹たる気分である。気候も不穏で日々が夏の様な日と冬を思わせる日が交差するから面喰らう。

街を歩けば色とりどりの花が眼に入る。墓参のために花を買い寺に向かうとブラシの花が眼に入った。赤いブラシの様な花というには変わり種である。遙か昔、江戸川べりを歩いていた時この花を見て珍しいと思ったのを思いだした。それ以来見ていないから珍種なのだろう。その隣家には桑の木に実がなっていた。黒い小さな実である。そこの家の方から美味であると伺う。桑の木は繁殖力が強く切ってもすぐに芽を出し大きくなる。植えたのでないのでどこからか飛んできた種が増える。蚕の食糧であるから虫が付きやすいので、嫌って眼の敵にしていた。他の木に虫がつくからだ。今度からは大事にしよう…。その家の屋上に蔓薔薇が多数あって盛りである。酷暑は水を切らせないから大変だと同情する。

今は紫陽花がまだ蕾。百日紅も葉を出したばかり。さつきは開花寸前である。

毎日花を見て、草をとり木々の剪定で費やす。今の季節は草木の伸び盛りである。ドクダミが白い小さな蕾をつけた。可憐で情緒のある花だけれども繁殖力が凄い。咲くと更に可愛いけれど花から根から増える。それだから葉になるのだろう……。というようなわけで我が家では目の敵である。先年まで笹が蔓延り^{はびこ}悩みの種だったが目につけば、むしり取ったせいで今は無い。笹は根が遠くまで伸びてゆく。だから絶滅は無理？と諦めていたのだが、どうにか今は皆無である。これもその生命力で繁栄のしるしで珍重されているようである。

芽映えが美しく、鮮やかなのはもみじだろうか……。関東では秋の紅葉は寒暖の差が少ないので鮮やかに染まらないから、鶯色で爽やかな五月の風になびくもみじを観るのが好きである。

令和4年5月19日

氏名	散歩の花子	町名	西新小岩、東新小岩	調査区	1-4、1-3
----	-------	----	-----------	-----	---------



カワウ（河鵜、川鵜）

中川の西新小岩付近で、
めずらしく1羽きり？で、羽をかわかしています。

アカバナミツマタ(赤花三叉)
／ジンチョウゲ科

3月下旬、黄色のミツマタはよく見かけますが、
赤花三叉は珍しかったので写真に撮りました。
赤くて、にぎやかです。



アケビ(木通)／アケビ科

遊歩道の片隅に、ちょこっと植わっていました。
地味、だけれど、かわいい花です。
いつか実がなるかな



氏名	散歩の花子	町名	東四つ木、西新小岩	調査区	2-8、1-4
----	-------	----	-----------	-----	---------

ハーデンベルギア
/ マメ科

中川 東四つ木付近で、
小さく、こんもりと咲いていました。
小町藤という和風な名前の方が
似合っています。



ハタケニラ(畑萋)
/ ネギ亜科

ニラではないのです。
この頃、増えてきたのか、
中川緑道のアチコチに、咲いています。
白くかわいい花なのに、駆除すべき雑草だとか・・・

ナミアゲハ(並揚羽) と
ハタケニラ(畑萋)



氏名：藤並 剛 町名：亀有 調査区：3

葛飾区では、令和4年度の予算がまとまり、3,400万円をSDGs（持続可能な開発目標）の推進に活用することになった。SDGsの17の目標の中で、4-2「2030年までに、すべての少女と少年が、初等教育を受ける準備が整うよう、乳幼児向けの質の高い発達支援やケア、就学前教育を受けられるようにする」、12-8「2030年までに、人々があらゆる場所で、持続可能な開発や自然と調和したライフスタイルのために、適切な情報が得られ意識がもてるようにする」というターゲットについて考えてみたい。私には、「昆虫少年少女を育成する」という目標がある。この目標と先の2つのターゲットは、どんな関係があるのだろうか。初等教育の準備とは、「読み書き算盤」の前にどんな体験が必要なことかということ。また、自然と調和したライフスタイルとは、自然と共にある生活ととらえて考える。

京都大学の広井良典氏は、『持続可能な医療』*1という本の中で、「アメリカの作家リチャード・ループが2005年に刊行した著書『あなたの子どもには自然が足りない』で提起したとらえ方で、その内容は、子どもあるいは広く現代人は自然とのつながりが根本的に不足しており、それが発達の過程にマイナスの影響を及ぼすとともに、大人を含めて様々な現代病の背景にもなっているというものである」と問題を提起した。また、この著書の原題は、「自然の中にいる子どもは現代では『絶滅危惧種』になっているとの趣旨」であると述べている。私たちは、急いで昆虫少年少女を育てなければならない。

解剖学者の養老孟司氏と仲間の2人は、『虫捕る子だけが生き残る』*2という本の中で、「養老 子どもをまともに育てようと思ったら、とにかく戸外で、自然の中で作業させるのが一番いいですよ。人間はもともと、そうやって生きてきたんだから。いくら近代化したって、子どもは常に白紙で生まれてくる。近代的な世界の中で、子どもを育てた方が良くなるという実験結果は、どこにもないでしょう」と話す。「池田 虫捕りもスポーツも、辛抱とか努力の結果でしょう。思い通りにならないということを痛感する。思い通りにならないのが当たり前なんだということの意味が大きい。ゲームだって、本来はスポーツと同じようなものはずなのに、攻略本があったりして、思い通りになってしまう」と返す。「奥本 虫は思い通りにならない。不条理である。そこが魅力であって、ゲームにはない筋書きが展開していく」と話す。「養老 自分の思い通りにならないはずがないと思っているから、ストーカーみたいなものも出てくるんじゃないのかな」とまとめる。「池田 子どもたちにもっと虫捕りをさせたいね。ムシキングみたいなゲームには夢中になるけど、昆虫採集まで行かないんだよね。みんな昆虫採集の楽しさを知らないから」と問題提起する。「奥本 ゲームって、

習熟すると、ある程度反応がわかってきて、高得点を重ねていけるけど、虫はなかなか予測できませんからね。もっといろいろな条件があるから」と話す。「養老 だから、子育てに必要なんです」とまとめる。「養老 今、子どもたちに虫捕りをさせるなら、まずは虫の探し方や捕り方を教えないとダメですね」と話す。また、「養老 頭が固い人って、動きも硬いんですよ。体が硬い」と問題提起をする。「奥本 やっぱり、小さいときから捕らないとね。トンボ釣りとか、魚すくいとか、何でもいから生き物を相手にするのがいいんだな」と話す。「池田 われわれには本来、捕りたいという欲望があるんですよ。しかし、現代社会ではそういう欲望をストレートに出してはいけないことになっているから、どこかに歪みが生まれる。だから、いきなり人を殺したりするんだよね」と話す。「養老 辛抱ができないんです。虫捕りに行けば、努力、根性、辛抱が絶対に身に付きますよ。『ちっとも捕れないねえ』とかブツブツ文句を言いながらも、みんな辛抱するから」とまとめる。「池田 そういう発見が面白いところというのはだんだん少なくなっていますが、自分でいろいろ工夫して、我慢して、辛抱して、やっとの思いで捕れたときの喜びって、何物にも代えがたいですよ」と話す。「奥本 標本を買っても嬉しいんだけどね」と返す。「池田 欲しいものが手に入ったという意味では嬉しいですけど、自分で捕ったらやっぱり喜びもひとしおで」はないかと話す。「奥本 それは比べものにならないね」と納得する。「養老 そういう喜びを、今の子どもたちにも味わってもらいたいということです」とまとめる。この本によって、昆虫採集や生き物とのふれあいが小さい子どもには大切なことがよく理解できた。

最後に、養老氏の対談集を本にした『子どもが心配』*3から、養老氏と脳科学者の小泉英明氏の対談の文を引用する。「養老 戦後になって日本人は、『身体』の問題を意識しなくなった、または忘れてしまい、『脳』だけで動くようになった。かねて私はそう考えていますが、その原因の一つは、小泉先生が重要視されている『乳幼児期における体を使った学習』が軽視されてきたことにあるのかもしれない。小泉先生が『実体験が大切である』とおっしゃっているのは、いまの『身体性』と直結する話ですね」「小泉 はい。一番最初に必要なのは実体験なのです。発達には時間軸に沿って変化します。時間の矢は反転できません。ですから、順番が本質的な意味を持つのです。芸術教育でも、心が先か技術が先かという議論が絶えません。たしかに両方ともに大切だと思いますが、私は心が先だと思っています。最終的な到達点に差が出てくるように感じます。

(そこで、) 幼いときに、自然と触れ合うことによって、豊かな幅広い感覚系が育まれるのです。自然界の形をよく見てみると、縦線も横線も、そして曲線もとても豊富です。一方、人工の世界は、たとえば都市を見ると、横や縦の直線が異常に多いことがわかります。プラスチックの造花を部分的に拡大してみ

も、大きな変化は見られませんが、自然の花々は拡大すると次々と違う世界が広がります。このように豊かな情報を乳幼児期に取り込むことが、一生の宝になると私は思います。それに実体験は、認知世界を広げるうえで重要です」と話している。この本からわかることは、小さな子ども時代にできるかぎり自然にふれさせ、その体験をもとにバーチャルな知識も生かされるといことだと考える。昆虫観察において、私は5歳から10歳くらいの少年少女期に、昆虫採集等自然体験をしていなければ、大人になってから勉強と称して自然体験をしても思考力を鍛えることにはならないと思う。最近、小学校の教師になって初めて、子どもと一緒に虫に触る人がいることを知った。教育大学で、生き物と触れる授業もするということが聞いた。無駄であるとは思わないが、遅すぎると感じる。親も子も、自然体験の機会を持つ場を増やしていきたい。これが、今回のSDGsの提案である。(2022年5月5日)

《参考・引用文献》

*1『持続可能な医療～超高齢化時代の科学・公共性・死生観』広井良典、ちくま新書、2018年発刊。

高齢化の急速な進展の中で、日本の医療費はすでに年間40兆兆円を越え、さらに着実に増加している。一方、私たちは医療や社会保障に必要な負担を回避し、1千兆円に及ぶ借金を将来世代にツケ回ししつつある。そもそも医療とは、科学、社会システム、ケア、死生観、コミュニティといった多様なテーマが交差する領域だ。これからの全体を俯瞰したうえで、医療のありようや社会の中での位置づけが、いまこそ公共的に問いなおされねばならない。持続可能な医療そして社会を構想するための思想と道筋を明快かつトータルに示す。

*2『虫捕る子だけが生き残る～「磨化社会」の子どもたちに未来はあるか』養老孟司会・池田清彦・奥本大三郎、小学館101新書、2008年発刊。

解剖学者として、広い見識を持つ知識人として『バカの壁』をはじめとする数々のベストセラーを送り出している養老孟司。生物学者として、構造主義生物学論にとどまらない環境問題や人間の生き方についての著作でも知られる池田清彦。フランス文学者として、ヨーロッパや日本の文化、そして都市環境への高い関心を持ち、『ファールブル昆虫記』の翻訳も手がけた奥本大三郎。その3人が「虫好き」というたったひとつの共通項をもとに、子どもたちの正しい育て方と、人として生きるべき方向について語り合った。

*3『子どもが心配～人として大事な三つの力』養老孟司、PHP新書、2022年発刊。

「子どもは本来『自然』に近い存在である」と考える解剖学者が、都市化が進んだ現代の子どもが幸せになる教育について、四人の識者と真筆に語り合う。医療少年院で非行少年の認知能力の低さに愕然とし、子どもの認知能力の向上に努めてきた宮口幸治氏。インターネットで「正しい育児法」を追いかける親を心配する、小児科医の高橋孝雄氏。困窮初の超電導MRIを開発し、子どもの脳の大規模研究を行ってきた小泉英明氏。生徒が自分で野菜を育て、机や椅子も作る学校、自由学園の高橋和也氏。子どもと本気で向き合ってきた経験から紡ぎ出される教育論。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年3月5日

ミチタネツケバナ（外来種）



区内北西部 令和4年3月5日

外来種のミチタネツケバナです。在来種のタネツケバナだと思っていました。いくつか似た種があり、見分けが難しいらしいです。

派手な生き物が見つからなかったため、一応調べてみたら、在来種と思っていたものが外来種でした。

3月は春、花が咲き始めたり、水鳥が北へ帰ったりとよく見ると結構、水辺はあわただしいです。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年4月16日

在来種タンポポの多い群落



2022年4月9日 区北西部

在来種のタンポポが7割～8割の珍しい群落です。

花をひっくり返してざっと確認しただけです。

なぜ在来種が残っている群落なのかの理由はわかりません。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年5月4日

スイバ



スイバ（右は花、左は結実したもの）

区内北西部 令和4年5月4日

スイバの花と結実したものです。

普通に生えていますが、結実したものなどは赤くて目立ちます。

緑色の時期もあります。

秋・冬も紅葉して綺麗で、春は緑の中で目立ち、冬は枯草の中で目立ち、好きな植物の一つです。

《鎌倉町の自宅の庭》



2022年3月15日 ヒラタアブの仲間



2022年3月20日 クモの子供？



2022年3月28日 ビオラにイモムシ



2022年4月6日 カゲロウ？



2022年4月6日 蛾、思いのほか可愛い顔



2022年4月22日 イモムシに何かの卵? とアリ



2022年4月30日 コガネグモ



2022年5月26日 コガネグモ

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和4年 月 10日)				

種類	3月	4月	5月	種類	3月	4月	5月
西洋タンポポ	20	880	10	シロツメ	0	0	多数
つゆ草	0	0	0	ユリカモメ	0	0	0
シジミ蝶	0	10	5	カモ類	300	157	0
クロアゲハ蝶	0	0	1	アオサギ	1	2	1
				コサギ	1	0	1

関東タンポポの花数 令和4年春は路地観察で関東タンポポを多数発見
 ・3月24日金町5丁目路地 (10個) ・3月26日金町5丁目個人駐車場 (5個)
 ・3月27日水元某公園 (50個) ・4月4日金町3丁目路地 (10個)
 ・4月10日水元公園土手 (10個)

写真は春の草花

②4月10日 水元公園入口階段わき

5月 東金町4丁目道路わき

外来種の花
とつつじのコラボ



令和4年4月10日 シロタンポポ(水元公園)

野鳥情報 3月～5月の観察

① ユリカモメ

水元公園の小合溜から公園周囲の観察を月1回実施の報告なのだが3～5月の10日当日「ユリカモメ」を数えることができなかった。公園内のどこかに飛来していたかもしれないが（原因は何？）

② カモ類

5月10日13時ころ「カモ類」がまったくいない、三郷側にもいない。渡り鳥はいなくなって数は減っても、他の野鳥0は初めてだった。

③ つばめ

・ つばめの飛来は4月中旬確認、観察の巣は昨年と同じ3箇所（東金町4丁目～3丁目）

A地点・今年は巣を出入りする親鳥をみるが、ひなはまだの様子 →5月下旬（5月11日）

B地点・撮影許可をうけて写真にとった。巣は2カ所あり、ひな5羽の情報あり
ここもひなは昨年より遅いようだ。5月下旬

C地点・個人の駐車場 5月10日ひな4羽確認 下旬巣立つ



→親鳥のみ

←B地点
二か所共
つばめの
親鳥の尾
がみえる

→ひな5羽
(5/20)

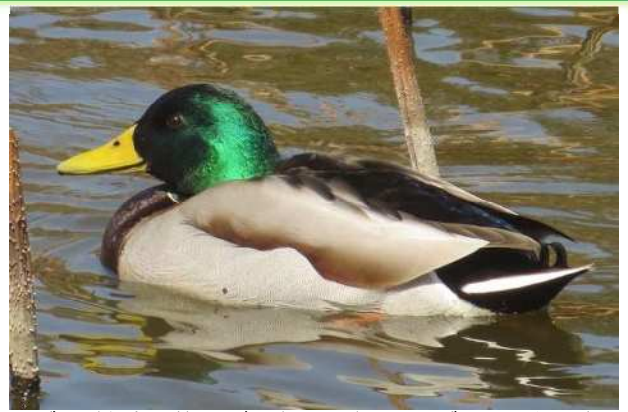
調査区：5 T・K

6月5日、江戸川の土手に漬れた子ネズミが何匹も死んでいた。6月3日に激しく降った雹が原因なのか。
6月6日に関東地方が梅雨入り。この時期の楽しみ雨に濡れる紫陽花の観賞。 220607



キンクロハジロ。冠羽が垂れる雄。

'22・3・13 水元公園 小合溜



マガモ。地味な体色が頭部のメタリックグリーンを際立てている。'22・3・9 水元公園 水辺のさと



コメツクムシの仲間。日本に何百種もいるそうです。

'22・5・22 水元公園オニバス池付近



光沢のある朱色が目立つ羽化直後のヨコヅナサシガメ

'22・4・21 桜土手



土手横に住む人が大切に見守っていた。

シロバナタンポポ。'22・3・25 桜土手



イモカタバミ。グラデーションがかかる綺麗なピンク色。

'22・5・10 桜土手

水元公園 天王兔口 付近



3/9



3/27



4/1



4/8



4/13



4/21



4/28

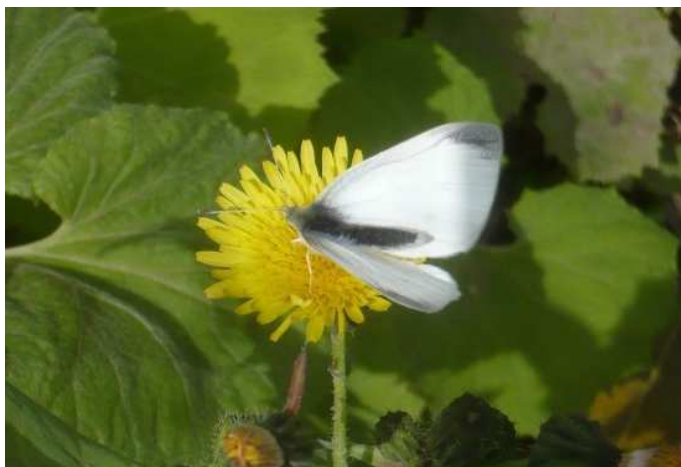


5/3

自然観察レポート 調査区5

R4/3~5月の巻 佐々木 定治

弥生3月から自然の動きを覚えながら



3/7 水元2丁目 モンシロチョウ



ヒメオドリコソウ



4/10 水元2丁目 シャガ



ツクシ↑ ナナホシテントウムシ↓

季節が変わりゆくということを暮らしのなかで、感じることは毎日の暮らし方に、感動を覚えることです。感動は心の奥底をくすぐり、その日その日に生あることに感謝することにほかなりません。春から夏へと季節が移ろいで行くときには、まるで自然から私に対して「しっかり見守ってよ！しっかりみてくださいよ！」と言ってくれているような気がします。そのことは自然の刻々と変化していくことの、驚きをとらえるごとく、生きていく毎日の変化の中に、自分発見を見つけることにつながっているようにも思います。僭越ながら私は、自然の動きを毎日の自分の暮らしに取り入れるように、工夫した生き方をしなければと考えているところです。



暮らしの中で水元の自然と遊ぶ



5/30 水元3丁目 栗の花↓



←5/12 クロアゲハ 水元3丁目 ドクダミ↑



5/31 水元2丁目 ホタルブクロ↑

季節の言葉である「栗花落」は「つゆいり」とか「つゆり」と読みます。語源は栗の花が落ちる時期が梅雨入りであるため「つゆいり」から「つゆり」のように転訛して「栗花落」の字に充てられたと言われています。確かに栗の花が落ちるのは梅雨入りの時期と合致しているように感じます。上記の栗の花の満開記録写真は5月30日です。今年の梅雨入り宣言は6月6日でしたから、納得の季節用語です。

またこの時期の草花として「ドクダミ」がぴったりだと思います。白い花のように見えて実は花ではない白字は、私の勝手な解釈では命の守り神のようにも思います。水元3丁目の保育園で遊ぶ園児が、クロアゲハを捕獲し見せてくれました。勿論そのあと直ぐに放して自然に飛び立っていきました。下向きに咲くホタルブクロも健気にほの暗い樹木下で見つけることができました。私も自然と遊ぶ心をいつまでも持ち続けたいと思います。

葛飾区自然環境レポーター 自由レポート (2022年3~5月)

氏名：江戸川の小鮒	調査区：主に5-24、5-26	町名：東金町
-----------	-----------------	--------

3月19日(土) 水元公園→東金町8丁目地先江戸川堤防

- ・コブシ・ボケ 水元公園内では見事に咲き揃っている。
- ・ツバメ(1) 初認 水元公園内
- ・ヒバリ(3) 江戸川堤防上では囀りをそこかしこで確認。春の訪れを実感。

4月2日(土) 水元公園

- ・ツバメ(2)、カワセミ(1)、コガモ(2)
- ・水辺に目をやると、美しい世界が広がっていた。ツクシが背を伸ばし(左)、水辺には何やらミツバチが集まり(中)、美しい花(右)も咲いていた。春の到来は毎年心が躍るものです。



4月17日(日) 水元公園不動池サンクチュアリ→東金町8丁目地先江戸川河川敷

- ・カワセミ(1) 不動池では多くのカメラマンが写真を撮っている。
- ・チョウゲンボウ(1)、ヒバリ(2)・ツバメ(4) 江戸川堤防上では様々な鳥の姿が見られる。
- ・旧葛飾橋の上から江戸川を眺めると、干潟のような低水路が姿を現していた(左)。川岸の新緑の柳との景色が何とも美しかった。
- ・河川敷では川柳(右)の綿毛のような種子がフワフワ飛んでいましたが、その綿毛にテントウムシがくっついていて、何とも愛らしかった。



5月29日（日） 東金町3丁目 商店街

昨年、東金町3丁目商店街にてツバメの営巣調査を行いました。今年も昨年と同じコンビニの軒先に巣作りを始め、ヒナがすくすく育っている。こちらの小さな巣にはヒナが5羽いるのを確認。何とか無事に育ててほしいものです。

ただし昨年確認した他の場所では子育てが確認できず。引き続き同じ地域で調査を行っていきたいと思います。



5月29日（日） 自宅

・アシダカグモ（と思われる）
自宅室内に入るところを発見。
窓の隙間から入ってきた様子。
外に出してあげましたが、吐く糸が
かなりしっかりしていたのに驚きました。



《番外編》

5月3日（火） 景信山から高尾山への縦走

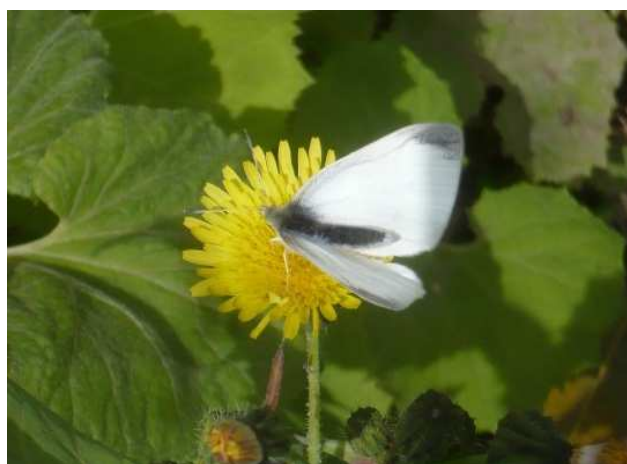
・ツキノワグマ
少なくとも登山道の3カ所に「クマ出没注意」の掲示あり。これまで10年以上高尾山には通っていますが、このような掲示は初めて。幸いクマに出くわすことはありませんでしたが、これまでも近くの山域などで目撃情報はありましたので、クマもちょっと高尾山まで足を伸ばしたということでしょうか。それだけ高尾山の自然が豊かなのかもしれませんが。東京に残されたこんな素晴らしい自然も守っていきたいですね。



季節の写真集 (3月～5月)

モンシロチョウ

3/7 水元2丁目 名前：佐々木定治



「明らかに小さいスミレ」

ヒメスミレ

3/20 区北西部 名前：石鍋壽一



「側溝の隙間から健気に咲くホトケノザ」

3/21 水元 名前：ゆきひめ



「春ですね」

クサギカメムシ

3/29 柴又 名前：瑛ちゃん



季節の写真集 (3月~5月)

「春分の日、咲きました。雪に負けるな!!!」
(撮影日翌日は雪が降りました)
3/21 上千葉砂原公園 名前：慶蔵



「これだけ鮮やかになりました」
3/25 上千葉砂原公園 名前：慶蔵



「これでも私こどもなんです」
3/27 水元公園 名前：慶蔵



蛾
4/6 名前：となり



「ゼニゴケもよくみるとかわいい」
4/13 水元 名前：ゆきひめ

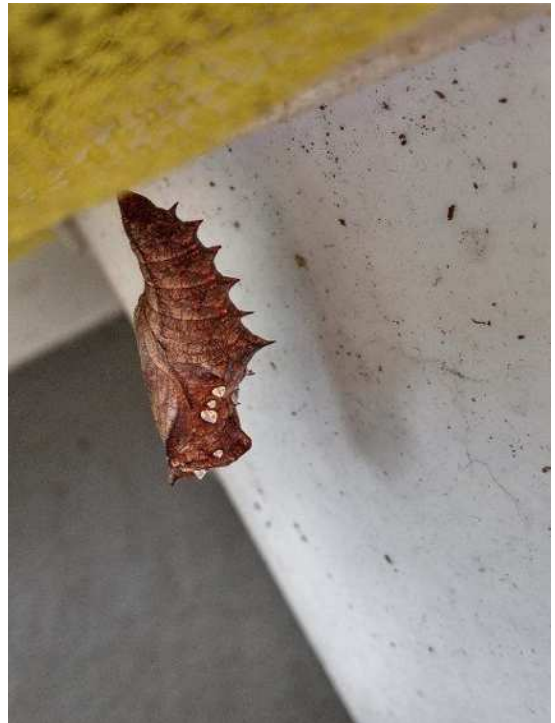


季節の写真集 (3月~5月)

「うちの保護虫」
ツマグロヒョウモン
3/28 お花茶屋 名前：R y u



「男の子かな？女の子かな？」
ツマグロヒョウモン
4/1 お花茶屋 名前：R



「蛹化途中」
ツマグロヒョウモン
4/10 お花茶屋 名前：R y u



「羽化成功」
ツマグロヒョウモン
4/27 お花茶屋 名前：R



季節の写真集 (3月~5月)



「クサフジと似た外来種」

ナヨフサクジ

4/9 区北西部 名前：石鍋壽一

コガモ

4/12 水元公園 名前：瑛ちゃん



ネコハエトリ

4/30 名前：となり

「花」

ノイバラ

5/4 区北西部 名前：石鍋壽一



季節の写真集（3月～5月）



「おいしそうだよ ヒヨドリちゃん」

ヤツデの実

5/6 金町 名前：瑛ちゃん



「ベランダから侵入」

クワキヨコバイ

5/17 5/24 名前：有泉桂子

ナミアゲハ

5/25 お花茶屋 名前：R y u

ジャコウアゲハ
5/29 名前：となり



季節の写真集（3月～5月）

名前：高橋雅子

季節の写真集 春

☆ハクセキレイの幼鳥だと思いますが、違ってたらご指摘ねがいます。



☆ハスとトンボさん



☆1年ぶりのオオヨシキリです。



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-296

調査回数 調査日 地点		298			備 考
		2022/3/19			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	2 47-50			
2	ア ユ	1 76			
3	カ ダ ヤ シ		1 28	5 16-26	特定外来生物
4	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	1 38			
5	タ イ リ ク バ ラ タ ナ ゴ		1 22	2 20-25	
6	ド ジ ヨ ウ		2 65-65		
7	ヌ マ チ チ ブ	5 45-70			
8	ハ ク レ ン	1 740			
9	ハ ス	1 63			
10	ボ ラ	72 28-38	5 28-34	2 30-32	
11	メ ダ カ		12 24-30	4 18-25	
12	モ ツ ゴ			1 42	
計		7種類83個体	5種類21個体	5種類14個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて12種類118個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り時々曇、気温18.4℃、水温 本流12.4℃、新八水路16.4℃、新八ワンド15.2℃（14:30頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
 (10:00)1.76m (12:00)1.76m (14:00)1.80m

【参加者コメント】

- ・ 腰を傷めて水に入れなかったため、永年の酷使で傷んだ手網の網地交換に取り組んだ。さのみやさんの手網は枠も取付け方もしっかりしていることが改めて解った。全長38mmのゴクラクハゼが採れた。アシシロハゼの雄にやや似るが、アシシロの黒斑が小さく散らばるのに対し、ゴクラクはやや大きく鮮明な黒点列が測線上にあることで区別できる。小さいと青緑色に反射する鱗は見られないようだ。（YK）
- ・ ボラの赤ちゃんの大群が2回網に入ったり、人食い岩の近くで40cmくらいある？おっきい魚が入ったり（逃がしてしまったが）して、水中ももうすぐ春なんだあと感じた。卒業前最後の調査だったが、いろんな魚に出会えて楽しかった。（AN）
- ・ 過去データを見て気が付いた。年間に採れる魚の種類が、本流は安定しているが、新八水路は2001年以降減少が続いており、ワンドは2017年ごろから減少している。原因として
 - ①水路の入り口が埋まり、ワンド経由でしか水路に魚が入れなくなった。（大雨の際の増水時にしか水路入り口は冠水しない）
 - ②ワンドの入り口が荒れてワンドに魚が入りにくくなった。（枯れ枝などゴミが浮遊）
 - ③ワンド内の土砂の堆積により、水位が下がった時に水面が減少（底が露出）する。
 - ④水路内の土砂の堆積により、水位が上がった時でも大きな魚が入れる深さにならない。（例：ノッコミの際に水路最深部までたどり着けない）
 などが複合的に影響していると思われる。（SI）

【今後の調査日】 4月16日(土) 5月14日(土) 6月11日(土) 7月30日(土) 8月27日(土)
 HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-297

調査次数 調査日 地点		299			備 考
		2022/4/16			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	41 30-65			
2	ア ユ	7 68-77			
3	ウ ナ ギ	2 110-128			
4	オ イ カ ワ	34 35-85			
5	ギ ン ブ ナ		2 66-85		
6	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ		1 365		
7	コ イ		1 115		
8	ス ミ ウ キ ゴ リ	1 47			
9	タイリクバラタナゴ		4 26-34		
10	ツ チ フ キ	1 123			
11	ヌ マ チ チ ブ	76 27-68			
12	ボ ラ	56 22-183			
13	メ ダ カ		1 30		
計		8種類218個体	5種類9個体	0種類0個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて13種類227個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温18.6℃、水温 本流13.3℃、新八水路17.4℃、新八ワンド19.1℃（14:30頃測定）
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
(10:00)0.93m (12:00)0.59m (14:00)0.68m

【参加者コメント】

- ・ 新八水路の最奥部で365mmもあるゲンゴロウブナが手網で採れた。腹が凹んでいたのが産卵後の雌と思われた。行徳の水閘門を閉めた満水位からゲートを開放すると、ワンド内から本流への流れができるため、これを溯上して産卵にきたと考えられる。最近ゴクラクハゼがよく見られるようになった。汽水域を中心に棲息しているようだが、陸封される事例もあるそうで、新八周辺でも安定して出現しているので繁殖を始めたのかもしれない。（YK）
- ・ 朝から本流の水位が下がっていたため、ワンドは中央に浅い水面と縁に水溜り程度の水面のみ。採れたのはオタマジャクシだけで残念な結果だった。大きなツチフキには驚いた。やはり、123mmは新八での最大全長の更新だった。（SI）

【今後の調査日】 5月14日(土) 6月11日(土) 7月30日(土) 8月27日(土)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-298

調査回数	調査日	調査地点	300			備 考
			2022/5/14			
			本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア	シ シ ロ ハ ゼ	60 33-74			
2	ア	ユ	2 53-63			
3	ウ	ナ ギ	1 67			
4	オ	イ カ ワ	38 35-101			
5	コ	イ			1 14	
6	コ	ク チ バ ス	2 162-166			特定外来生物
7	ゴ	ク ラ ク ハ ゼ	2 43-70			
8	ス	ゴ モ ロ コ	8 58-93			
9	ス	ズ キ	2 43-62			
10	ス	ミ ウ キ ゴ リ	1 32	1 30	1 32	
11	デ	メ モ ロ コ	2 58-82			
12	ニ	ゴ イ	3 109-132			
13	ヌ	マ チ チ ブ	76 30-73			
14	フ	ナ SSP			1 15	
15	ボ	ラ	24 32-360			
16	マ	ハ ゼ	1 28			
17	マ	ル タ	7 18-129			
計			15種類229個体	1種類1個体	3種類3個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて17種類233個体の魚類が採集されました。
- ・ 雨のち晴れ、気温27.0℃、水温 本流19.8℃、新八水路19.8℃、新八ワンド24.0℃（15:30頃
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
（10:00）0.83m（12:00）0.57m（14:00）1.04m

【参加者コメント】

- ・ 朝の雨から一転、午後は暑いほどの陽射し。採取された魚種も含め、初夏らしい気候でした。
川の中で測定していたら、カラスが下りてきて、見張っていました。近くに巣がある様子です。刺激しないようご注意を？（KI）
- ・ ウナギの幼魚を採ることができて嬉しかった。しかも狙っての採取なのでより一層嬉しい。水路とワンドのどちらにもメダカとカダヤシが確認できなかったが、こんなことは記憶になく、何が起きたのだろうか？
記念すべき300回目の調査だったが、誰も気づかず。それにしても、長く続いています。（SI）

【今後の調査日】 6月11日(土) 7月30日(土) 8月13日(土)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

環境課からのお知らせ

自然環境係 電話：5654-8237（直通）

お友達や知人の方など

★自然環境レポーターに誘ってみませんか★

—広報かつしか7/5号に掲載いたします♪—



現在葛飾区では、多くの方に自然や生きものに興味を持ってもらうことが大切だと考えています。皆様が参加されているこの「葛飾区自然環境レポーター」制度は、今まで自然観察をされたことがない方でも気軽に楽しんでいただける内容のものとなっております。今後もこの制度をきっかけに、身近な自然や生きものに興味を持っていただける方々をますます増やしていきたいと区として考えております。

令和4年度の自然環境レポーターの新規加入者募集も始まります。この機会にぜひ、皆様のお友達や知人の方などを自然環境レポーター制度に誘っていただき、一緒に研修会に参加してみませんか？そして、環境レポートを友人・知人と相談しながら作成すると、レポーター活動も楽しくなるかもしれませんね。

もし、ご紹介していただけるお友達や知人の方などいらっしゃいましたら、事務局までお知らせください。よろしくお願いたします。

【申込期限：令和4年7月25日（月）】

★もうすぐ自然環境レポーターの更新の時期になります★

自然環境レポーターの皆様には9月1日から1年の任期で活動していただいております。現在のレポーターの皆様におかれましては、引き続き活動していただければ幸いです。後日、意思確認の通知を郵送いたしますので、必ず返信または、自然環境係までご連絡くださいますようお願いいたします。

★自然環境レポーター委嘱式・研修会★

委嘱式と研修会を「エコライフプラザ」にて行います。年1回の委嘱式ですので、レポーターの皆様のご出席をお待ちしております。

※詳細は、後日ご案内いたします。



★鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会★

令和4年9月中に区内3カ所のカンタンの里で実施を予定しています。
詳しくは、広報8/25号（掲載予定）をご覧ください。

- ・西亀有せせらぎ公園（西亀有 1-10-1 先）
- ・北沼公園（奥戸 8-17-1）
- ・青戸平和公園（青戸 4-23-1）



★綾瀬川で水辺環境調査を行います★

採取した生きものを展示して、その場で調査結果の概要を説明します。
直接会場へお越しください。 駐車場はありません。

日にち 7月14日（木） 〈予備日7月15日（金）〉
時間 11時30分～12時（調査報告）
場所 綾瀬川（東四つ木避難橋付近）

★新ハ水路で魚類調査を行います★

日にち 7月30日（土） 8月13日（土） ※直前に確認して下さい。
10時～16時ごろ
場所 江戸川河川敷 ※事前にご連絡をお願いします。
持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス
詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>)



～夏号でご協力いただいたみなさま～

Rさん、有泉桂子さん、瑛ちゃん、江戸川の小鮒さん、
石鍋壽一さん、K・Nさん、慶蔵さん、佐々木定治さん、
散歩の花子さん、高橋雅子さん、田村ひろ子さん、
千葉美文さん、T・Kさん、となりさん、藤並剛さん、
弥生さくら草さん、ゆきひめさん、Ryuさん、
自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました☆彡

「水辺のふるさとかつしか」第321号
(葛飾区 自然環境レポーター通信第273号)

令和4年6月末日 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

Tel.(3695)1111 内線3522～3

直通電話 (5654)8237

fax (5698)1538



◆「水辺のふるさとかつしか」の内容について、お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。